

「がん教育」とロックスターの生き様

10月スタートの民放ドラマの主題歌が、何と「ローリング・ストーンズ」の新曲。さらに驚かされるのは、ボーカルのミック・ジャガー氏が80歳になったことか。1975年（当時32歳）に「45歳になって『サティスファクション』を歌っているくらいなら死んだ方がましだ」と発言したのは有名な話。映画「太陽を盗んだ男」（1979年公開）では主人公の理科教師がアパートの自室で「原子爆弾」を完成させ、政府を脅迫。その要求の一つが「ローリング・ストーンズを来日させろ」だったが、これは当時のストーンズがドラッグまみれでビザがおりず、来日できなかったことが背景になっている。そんな彼らだから、いまだに現役でいることにファンはびっくりする次第です。

さて、本校では先日、学校医のY先生から「がん教育」を受けました。「がんは誰でもなりうる病気」「日本人の2人に1人はがんになる」中で、「早期がんであれば9割の人が治る」ということで、検診の重要性を説明していただきました。特に、女子生徒にとっては、若い女性に多いという「子宮頸がん」について知ることができたことは重要で、感想文を読んでも、ワクチン接種がより身近になったようでした。かくいう私ですが、ここ数年、検診のたび、高血圧の予備軍・糖尿病の予備軍と言われていたのをまだ1軍じゃないと油断していたら、1年前にまさかの「急性心筋梗塞」。その時は、緊急入院してすぐに手術できたので命拾いしましたが、つくづく検診を受けることや良くない結果が出たらすぐに治療を受けることの大切を実感しました。お医者さんの言葉はおおげさに聞くのではなく、我事として聞くことの大切さを、身を持って知ったわけです。（生徒にもこの体験談をいつかしたいと思います。）

さて、ローリング・ストーンズですが、私が同僚3人で見に行ったのは、全世界で634万人を動員したと言われる1995年の「ブドゥー・ラウンジ」ツアー。この頃になると、ミック氏もアスリート並みの身体作り（毎日11キロのランニングとウェイトリフティング等）に、オーガニックにこだわった食事とサプリメントの摂取。普段の生活では朝は六時に起きて、夜は十一時に寝るとのこと。まさに、健康長寿を目指しているとしか思えないし、もちろん、悪びれる風でもなく、「サティスファクション」も歌いました。だいたい、ロックスターだって人の子。健康が一番だし、長生きはやっぱりしたいわけです。「プリンス・オブ・ダークネス」とか、「ゴッドファーザー・オブ・ヘヴィメタル」とか呼ばれたオージー・オズボーン氏だって、ファンに「お金もトレーナーもいらぬ」ウォーキングを勧めています。かつてはステージでエキサイトして、鳩やコウモリを生きたまま食いちぎったのにですよ。まあ、ミック氏が就寝前には、フェイスマスクに、目のくま対策のクリームを重ねて塗っているという記事を読んでも気にしません。だって、ストーンズの新曲もPVも、やっぱりカッコ良いです。（ちなみに、一張羅の洋服を着るようにR&Bのカバーをやっていた初期のアルバムがもっと好きですが。）

ところで、「急性心筋梗塞」で痛がる私が「救急車」を呼ぶようどれだけ頼んでも、家族はしばらくは冗談だと思い、相手にしてくれませんでした。普段から冗談ばかり言っていると、いざという時にも家族は冗談だと思い込む。このことも、いつか生徒に話したいと思います、もちろん冗談ではなく、教訓としてです。

令和5年11月6日 大村城南高等学校長 中小路尚也